

展示

3がつ11にちをわすれないためにセンター（わすれん!）のプロジェクトの一部を紹介します。

3/11（水）～3/15（日） 時間 10:00-18:00 会場 1F オープンスクエア
3/17（火）～4/19（日） 時間 9:00-22:00 会場 7F ラウンジ・スタジオa
※3/26（木）はお休み

中野伝承プロジェクト

なかの伝承の丘保存会



蒲生なかの郷愁館

震災により甚大な被害を受けた、仙台市宮城野区の中野小学校跡地に作られた「なかの伝承の丘」。その保存会の皆さんの活動の様子を、メンバー自らが映像で記録しています。今回は、2024年3月3日に開館した「蒲生なかの郷愁館」の開会式の様子と展示室を記録した映像を展示します。

広域避難のきろく

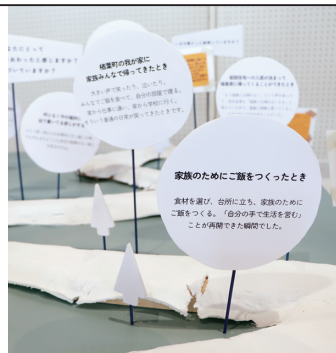
NPO法人北海道NPOサポートセンター

インタビューシートに書きのこす、それぞれの避難

一人ひとりの多様な避難の経験を記録するために、北海道で避難者支援事業に取り組むNPO法人北海道NPOサポートセンターと協働で、東日本大震災の「避難のこと」を書きのこせる「インタビューシート」を作りました。宮城県や福島県などから主に北海道に避難した方が寄せてくれたシートを展示します。

ならはアーカイブプロジェクト

一般社団法人ならはみらい



今だから話せる、あの時のこと。

福島県楡葉町は、原発事故により全町避難を経験し、避難指示の解除から2025年で10年を迎えました。町に戻った人、今も別の場所で暮らす人、震災後に町に関わるようになった人。それぞれが異なる道のりを歩んできました。ならはみらいでは、「道のりシート」を用いて、震災から現在に至るまでの経験や想いを伺い、その記録をまとめています。

葛尾村と松本家と来訪者の年表〈2016-2025〉

松本家計画（余田大輝（よくだ ひろき）、筏千丸（いかり ちまる）、石田きなり（いしだ きなり））

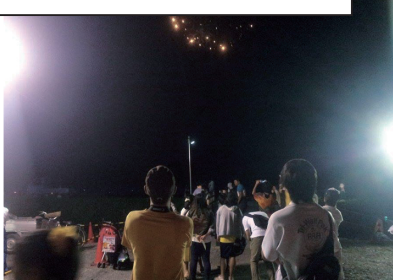


訪れる、記録する、物語る。

松本家計画は、福島県葛尾村にある一軒家「松本家」を舞台にさまざまな活動・記録をしています。避難指示解除後の葛尾村に訪れる人との交流やそこに住まう人の営み、震災や復興、土地の歴史など、「松本家」を通して見えてきた物語を展示します。

大川小学校とことば

佐藤敏郎（さとう としろう）大川伝承の会



今日も元気なただいまを

楽しく学び遊んでいた、大好きな大川小学校で、あの日多くの子どもと先生が犠牲になりました。佐藤敏郎さんは日々校庭に立ち、失われた風景、日常、いのちを伝えながら、その意味を考え続けています。この展示では、震災後に綴ってきた文章と写真、そしてそれらを今あらためて見つめ語り直した言葉を加え、紹介します。

9月6日ブラックアウトのなかで ーなに、食べた？

NPO法人北海道NPOサポートセンター



3月11日の記録を手がかりに

2018年9月6日の北海道胆振東部地震では、地震から18分後、全道規模の大規模停電（ブラックアウト）が起きました。そのなかで、どのようなごはんを食べたか、どのように過ごしたかなどについての記憶を残すために、2011年3月11日の星空の写真や「3月12日はじまりのごはん」のパネルを活用し、北海道の人たちが残したふせん／記憶を紹介します。

3月12日はじまりのごはん〈二膳目〉

3.11 オモイデアーカイブ

食から思い出す震災の記憶



市民が撮った東日本大震災の「食」にまつわる写真をもとに、来場者と震災後の暮らしを振り返る催し「3月12日はじまりのごはん」。その続編となる「3月12日はじまりのごはん〈二膳目〉」は、“なぜその写真を撮影したのか”といういきさつを通し、当時感じた感謝や違和感など、写真の裏側にある撮影者の気持ちに触れる展示です。

書きのこす

「書きのこす」ことに焦点を当てた取り組みを紹介します。

インタビューシート



それぞれの災禍の体験を綴り、振り返る

2023年3月より館内に設置している「インタビューシート」。東日本大震災に関するさまざまな体験談が残されてきました。今年度、わすれん!では新たに、宮城県外の個人・団体と協働し、東日本大震災以外の災害や災禍も振り返るインタビューシートを制作しました。これまでに寄せられたシートを読みながら、ぜひあなたの体験も教えてください。

- 東日本大震災のこと
協働：生活工房（公益財団法人せたがや文化財団）
丹羽朋子（にわともこ）文化人類学研究者
- 東日本大震災 避難のこと
協働：NPO法人北海道NPOサポートセンター
- 能登半島地震のこと
協働：映像ワークショップ合同会社

- コロナ禍のこと
協働：生活工房（公益財団法人せたがや文化財団）
丹羽朋子（にわともこ）文化人類学研究者
- 学生のころのコロナ禍のこと
制作：お茶の水女子大学の学生有志
丹羽朋子（にわともこ）文化人類学研究者

まちなかの距離感 ー2011年と2020年の仙台ー

3.11 オモイデアーカイブ／佐藤正実（さとう まさみ）



2つの災禍の風景から思い出す

2011年の東日本大震災と2020年頃のコロナ禍において、市民が撮影したまちの写真を展示します。それぞれの写真には、コンビニ、スーパー、商店街、駅などの普段と違った様子が写され、2つの災禍における類似した状況、あるいは全く異なる状況が見て取れます。これらの写真から思い出したみなさんの暮らしのエピソードを、ふせんに書いて教えてください。

写真上：2011年 / 下：2020年

窓のうかがわ

3.11 オモイデアーカイブ

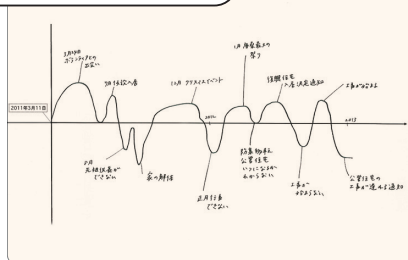


非日常のつまびらかな日々

自然の脅威にさらされた2011年3月。余震が続き、電気も灯らず真っ暗な夜でも、家の中はロウソクの灯火でやんわりと明るく、家族と過ごすうちがわには安心感がありました。非日常が日常となった日々の暮らしや子どもを見つめる親のまなざし、子どもの姿など、家族を写した写真から当時の市民生活を見つめ直します。

道のりシート

宮本匠（みやもと たくみ）大阪大学



曲線から浮かび上がる一人ひとりの“復興”

新潟県中越地震や東日本大震災の被災地において、「復興曲線」という手法を用いて個々人の復興過程についてインタビューをしてきた宮本匠さんとの協働企画。震災が起きた2011年3月から今までの道のりを、一人ひとりが書き込むシートを会場に設置します。あなたの震災後の道のりを、暮らしや気持ちの変化になぞらえて、自由な曲線で描いてみてください。

その他の災害や災禍 記録と活用

わすれん!は、これまで参加者とともに東日本大震災に関する記録を続けてきました。近年、その記録の一部を活用し、異なる災害や災禍を新たに記録しようとする個人・団体と協力した取り組みを始めています。災害や災禍を経験した地域や一人ひとりが記録し続ける試みを紹介します。

関連イベント

入場無料／申込不要 直接会場へ

会場 1F オープンスクエア

3/14（土）

トークプログラム「書きのこすこと、読み解くこと」

時間 14:00-16:00



手話通訳あり



要約筆記あり

話し手：

金榮知子（かなえ ともこ）NPO法人北海道NPOサポートセンター
木村英一（きむら えいいち）一般社団法人ならはみらい
西崎芽衣（にしざき めい）一般社団法人ならはみらい
わすれん!スタッフ

聞き手：

佐藤李青（さとう りせい）災関文化研究会・アーツカウンシル東京
宮本匠（みやもと たくみ）災関文化研究会・大阪大学

震災から15年という歳月が経た今、個々の経験にまつわる記録を残そうとさまざまな動きがあります。今年度わすれん!と協働した、2つの団体も取り組みを進めています。地震・津波や原発事故などの影響で北海道に避難した人たちの支援事業を担うNPO法人北海道NPOサポートセンターは、わすれん!とともに震災での避難にまつわる「インタビューシート」を制作し、広域避難を経験した人びとの声を集めました。福島県楡葉町でまちづくりに携わる一般社団法人ならはみらいは、原発事故による全町避難を経験した方・移住者などに「道のりシート」を活用して、インタビューをおこないました。これらの記録を始めるきっかけや、どのような記録が集まってきたのか、それぞれの記録との向き合い方を聞き、記憶を書きのこすこと・残された記録を読み解くことについて話し合います。

3/15（日）

てつがくカフェ 第98回

時間 14:00-16:30

「てつがくカフェ」は、わたしたちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いを投げかけ、「哲学的な対話」を通して、自分自身の考えを逞しくすることの難しさと楽しさを体験していこうとするものです。

※ テーマなどの詳細についてはわすれん!ウェブサイトをご覧ください。



「わすれん! 資料室」へもお立ち寄りください



わすれん! 資料室入り口

2Fの常設展示スペース「わすれん! 資料室」では、これまでに寄せられた記録資料の一部をご覧いただけます。



わすれん! 録音小屋

ふたりひと組で震災にまつわるお話を録音できます。録音小屋の利用は予約不要です。2Fの映像音響ライブラリーカウンターにて随時受付しています。



アーカイブィークル

「わすれん!」の資料を詰め込んだ小さな屋台。



定点観測写真

継続的な撮影によって浮かび上がる被災地のまちの記録を展示しています。



わすれん! DVD

参加者やスタッフが記録した映像を「わすれん! DVD」として発行しています。気になるDVDは借りることもできます。



崩落した3月

震災当時、仙台市宮城野区内の町内会長だった高橋親夫さんが記録した日記と写真から、避難所運営の日々を振り返ります。